

○学内からの視点

1. プログラムの履修・修得状況

本学における「名古屋経済大学データサイエンス教育プログラム（大学等全体）」は、2025年8月に既に認定されている「名古屋経済大学データサイエンス教育プログラム（経営学部）」を大学等単位へ拡大するプログラムとなっている。プログラムを構成する指定科目のうち、必修科目（統計学入門／2単位、数学入門／2単位、プログラム入門／2単位、AIデータサイエンス／2単位、AIデータサイエンスⅡ／2単位、AIデータサイエンスⅢ／2単位）の6科目12単位を取得し、且つ、選択科目（データ解析／2単位、情報処理概論／2単位、情報処理特論／4単位、情報社会と情報倫理／2単位、情報システムの理論と実際／2単位、経営情報論／2単位）の6科目14単位の中から合計4単位以上修得することにより、2023年度以降入学生が履修することができるプログラムとなっている。本プログラムは事前申込制となっており、2025（令和7）年度履修者は19名となっている。

全学教育推進センターが中心となり、学務システムやLMS（学習管理システム）を通じて、履修者数、出席回数、成績状況などで、プログラムの履修・修得状況を把握している。把握したデータを基に、科目担当教員間で共有しながら総合的な現状分析を実施し、次年度に向けた授業内容の改善に繋げている。

経営学部単位のプログラムから大学等単位のプログラムへ拡大することにより、今後の履修者数の増加を見込んでいる。さらには、学生にプログラムの意義や目的について周知を積極的に行い、履修率を向上させていく取り組みを実施していく。

2. 学修成果

本プログラムを構成する科目については、LMS（学習管理システム）への課題提出があり、履修・修得状況をこまめに把握できるようになっている。さらに、成績評価や授業評価アンケートを実施しており、「授業内容はわかりやすかったですか」という項目を通じて、学生の学習成果を確認することができる。授業評価アンケートの分析結果については、「名古屋経済大学FD委員会」と連携し、必要に応じて、教育内容及び教育方法等の改善と向上を図っていく。

3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

本学では、教育の内容及び方法を改善・向上させ、自己点検や評価を行うため、全学部に名古屋経済大学FD委員会の委員がおかれている。名古屋経済大学FD委員会では、本プログラムを構成する科目を含めた全科目を対象に、年度毎で1回の対面での授業評価アンケートを実施している。その結果を分析することにより、本プログラムを履修している全学部生の理解度の把握を行っている。

授業評価アンケートの分析結果については概ね高評価であり、学生の授業内容に対する理解度は高いものと推察される。そのうえで、学生の理解度向上のために、科目担当教員間で授業内容の改善・検討を継続的に行っていくことにより、更なる学生の授業内容に対する理解度を上げていく。

4. 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

本学では、授業評価アンケートを通じて、後輩等他の学生への推奨度を把握している。把握した推奨度を基に、履修ガイダンスや各種オリエンテーションで紹介することや、ホームページや学内メール、専用のチラシ等で周知することにより、本プログラムに対する推奨度を上げていく取り組みを継続する。

5. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本プログラムは、経営学部のみで実施していたプログラムであるが、2025（令和 7）年度より、大学等全体のプログラムへと移行した。これにより、2024（令和 6）年度プログラム履修者数は 9 名であったが、2025（令和）7 年度プログラム履修者数は 19 名となっている。

大学全体の学生数から考えると、プログラム履修者数は微増となっており、学生の履修状況や授業評価アンケートの結果などを踏まえ、プログラム対象科目の見直しを行うなど、プログラムの充実化を図っていく。また、在学生の履修者数向上に向けた取り組みだけではなく、本学の法人である学校法人市邨学園内の高等学校や近隣高等学校を中心とした模擬授業を展開し、本プログラムの紹介をするとともに、本学入学前の段階から、学生への周知活動を強化していく。

○学外からの視点

1. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

本プログラムの修了者は、まだ卒業年次ではないため、進路、活躍状況、企業等の評価については把握できていないが、今後キャリアセンターと連携をして、本プログラム修了者に対してアンケートやヒアリングを行い、また、企業が学生に求めるニーズを把握して本プログラムの改善を図る体制を整えていく予定である。

2. 産業界からの視点を含めた教育プログラムの内容・手法等への意見

産業界からの要請を反映させる教育プログラムを実現していくために、本プログラムの講義内容についての産業界からの意見を収集することを検討している。本学と産学連携を締結している商工会議所や本学キャリアセンターと情報共有を行い、産業界が必要としているスキルセットを把握して、教育プログラム内容に反映していく等の計画をしている。

3. 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

本プログラムでは、学生にとって身近な事例やトレンドなどを意識して、実践的な例題を多く取り入れ、学生が興味・関心を抱くようなテーマを設定して講義を行っている。

取り上げるテーマについては、授業評価アンケートや本プログラム履修者に対するヒアリングなどを通じて、継続的な改善や見直しを行っている。また、なるべくコンピュータと身近なデータセットを用いながら、実践的な能力が身に付くようにしている。

4. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

文系学生でもAI・データサイエンス関連分野に興味を持てるよう、基礎を重視した「分かりやすい」授業を実施している。また、履修者に対しヒアリングを行い、履修者のレベルにあった授業であるかを把握しながら、科目担当教員間でその情報を共有し、見直しや改善を行う体制が整っている。

理解度に問題がありそうな履修者については、LMSなどを使用しながら、個別にフォローする体制があり、それにより、本プログラム全体の内容・水準を落とすことなく適正にプログラム運営がなされている。